

あ お も り 町村 自治

2025 **1** No.1245

令和 7年

年 4 回 発行

編集・発行 青森県町村会

〒030-0801 青森市新町二丁目4番1号 TEL. 017-723-1331 FAX. 017-723-1347

HP <http://www.aomori-chousonkai.jp/>

新年のごあいさつ	2
本会100周年記念式典	4
全国町村長大会	6
いまが旬!	10
エッセイ 藤崎町長 平田 博幸	14



新たな拠点施設「ふじさき産業文化交流施設(リンゴカ)」

ふじさきまち
藤崎町

平成31年3月に惜しまれつつ閉校した旧弘前実業高等学校藤崎校舎をリノベーションした複合施設「ふじさき産業文化交流施設(リンゴカ)」は、全国で唯一「りんご科」があったことにちなんで「リンゴカ」と名付けられ、昨年オープンしました。

町発祥のりんご「ふじ」や町の歴史文化を楽しく学べるミュージアム、キノコ類を農福連携で生産する「屋内ファーム」、6次産業化を推進する「食品加工室」などの機能を有するほか、全面人工芝で天候に影響されことなくスポーツを楽しむことができる「屋内グラウンド」や、子どもたちが遊びながら運動できる「ふわふわドーム」もあります。

町の新たな拠点施設「ふじさき産業文化交流施設(リンゴカ)」にぜひお立ち寄りください。





新春にあたり

青森県町村会長 小 又 勉

明けましておめでとうございます。

町村長をはじめ関係各位におかれましては、新春をお健やかに
お迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、本会に対す
る御理解と御協力に感謝申し上げます。

我が国の少子高齢化と人口減少の進行は、社会、経済、地域な
ど様々な分野において深刻な影響を及ぼしている現状にあります。
昨年、本会では創立100周年を迎えました。大正13年から現
在に至るまでの100年の間、日本が飛躍的な発展を遂げました
が、我々町村は昭和の合併や平成の合併を経て、大幅な人口の減
少に直面するなど大きな変化を遂げました。その一方で、私ども
30町村は、県内総生産で一次産業が県全体の46%、二次産業が

あけましておめでとうございます

青森県町村会

同	同	監	同	同	同	同	同	同	理	同	副	会
富	相	事	櫻	畑	石	桑	平	船	山	山	会	長
岡	川	久	井	中	橋	田	田	橋	本	田	小	又
宏	正	慈	雅	総	勝	豊	衛	茂	晴	年	勉	
	光	修	洋	朗	大	昭		久	美	伸		
		一										



40%を担っており、町村地域の果たす役割は依然として大きいものがあると考えます。

その中であって私たち町村は、地域の持続性を構築・創造し、地域経済の再生・回復に向けて、また、地域の未来を担う子どもたちが希望にあふれ、健やかに育つ環境づくりや、いつ、どこでも起こりうる災害に備えた防災・減災対策、国土強靱化に向けて、心を一つにして全力で取り組んでまいります。

おかげさまで私ども町村会の財政基盤である共済事業については、北海道に次ぐ、全国2番目の事業規模にまで成長しております。また、本県は全国でも6番目の町村数を有しております。

私どもはこれらを大きな財産として捉え、町村長相互の「連携」と「調和」をもって大きな「輪」となり、持続可能な地域社会と輝かしい未来の実現に向けて、県をはじめ全国町村会や関係機関と連携し、様々な活動を展開してまいります。

最後に皆様方の御多幸と町村の益々の発展を祈念申し上げ、年頭の御挨拶といたします。

謹んで新春のお慶びを申し上げます

顧問 工藤 祐直

同 船橋 茂久

常務理事兼事務局長

原 田 啓一

ほか職員一同

青森県市町村総合事務組合

管理者 小 又 勉

青森県広報広聴協議会

会 長 小 又 勉

全国山村過疎地域振興連盟
青 森 県 支 部

支部長 山 田 年 伸

発電関係市町村全国協議会
青 森 県 支 部

支部長 平 田 衛

これからも30町村が 「和」をもって「輪」となって 青森県町村会創立100周年



本会は、本年10月で創立100周年を迎えた。これを記念して10月30日、青森市のホテル青森で式典及び祝賀会を開催し、次の100周年に向けた新たな出発点として更なる連携と調和をもち活動を展開していくこととした。

本会は、大正13年10月30日に168町村で青森県町村会として創立した。その後、昭和22年7月に現在の青森県町村会と名称を変え今日に至っている。

記念式典には、宮下県知事、吉田全国町村会会長（広島県坂町長）をはじめとする来賓、歴代町村長や市町村長等関係者約60人が出席した。

はじめに小又会長（七戸町長）が「人口が減少する中で、地域の持続性をどのように構築・創造していくのかが大きな政策課題。今後も町村地域は、食料供給や水資源の涵養、エネルギーの供給、国土保全など多面的な役割を担っていかなくてはならない。30町村が『輪』となって立ち向かっていく」と挨拶した。

引き続き、創立90周年記念式典以降の歴代本会会長等に感謝の意を表し、館岡元板柳町長、吉田前六戸町長、浜谷前階上町長、船橋平内町長並びに町村長OB会の最後の会長を務めた山崎旧脇野沢村長に感謝状を贈呈した。

その後、来賓の宮下知事、

丸井県議会議長、吉田全国町村会会長、西県市長会会長（青森市長）、松林県町村議会議長会会長（おいらせ町議会議長）からそれぞれ祝辞が述べられた。宮下知事からは「若い人たちが地域に定着し、一度は県外に出たとしても戻ってくる青森をつくっていかなくてはばいけない。一緒に新しい時代をつくっていききたい、

吉田全国町村会会長からは「町村は、わが国が持続的な発展を実現していくためになくてはならない存在。町村こそが地域課題解決の先進地だと胸に刻み『地方分散型の国づくり』、『都市と農山漁村が共生する社会の実現』を追求していく」との祝辞があった。式典終了後、祝賀会に移り、小又会長の挨拶に続き山田副会長（大鰐町長）の乾杯のあと、歓談に入った。また、国の重要無形民俗文化財である郷土芸能の「下北の能舞」が東通村尻^{しつか}後援会により披露され、最後は久慈監事（蓬田村長）による万歳三唱で式典を締めくくった。



感謝状を受けた歴代会長等：右より館岡元板柳町長、吉田前六戸町長、浜谷前階上町長、船橋平内町長、山崎旧脇野沢村長



挨拶する小又会長（七戸町長）

祝辞を述べる来賓



松林県町村議会議長会
議長会会長
(おいらせ町議会議長)



西県市長会会長
(青森市長)



吉田全国町村会会長
(広島県坂町長)



丸井県議会議長



宮下県知事



乾杯の音頭をとる山田副会長（大鱈町長）



郷土芸能披露：国重要無形民俗文化財「下北の能舞」
(東通村尻労後援会)



万歳三唱の音頭をとる久慈監事（蓬田村長）

少子化対策の強化と

地方創生の推進に関する特別決議案を採択

全国町村長大会



全国町村会は11月20日、東京都のNHKホールで全国町村長大会を開催し、県内町村長をはじめ、全国の町村長など約1,500名が出席した。

大会では、吉田全国町村会長（広島県坂町長）があいさつし、「我が国の少子高齢化と人口減少の進行は、社会、経済、地域等のさまざまな分野において深刻な影響を及ぼしている。この現状を打破するには、国全体として、これらの問題に立ち向かい、東京一極集中を是正し、地方分散型の国づくりを強力に推進するとともに、持続可能な地域社会を追求していかなければならない。我々町村長は、相互の連携を一層強固にして、これらの課題に一致結束して、積極果敢に取り組んでいこう

ではないか」と参加者に訴えた。

続いて、深刻化する人口減少社会に対応する町村長の総意を明らかにするため、棚野全国町村会副会長・会長代行（北海道白糠町長）が緊急宣言を朗読した。

その後、来賓挨拶に移り、内閣総理大臣代理の青木内閣官房副長官をはじめ、出席の来賓からそれぞれ挨拶があった。

引き続き議事に入り、町村行財政をめぐる諸問題解決に向けた14項目の決議案並びに緊急決議等が原案のとおり決

定された。さらに、35項目の大会要望も一括採択された。

■決議（項目抜粋）

- 一 人口減少に歯止めをかけ、少子化対策をさらに強化するとともに、地方創生を強力に推進し、東京一極集中の是正と分散型国づくりの実現を図ること。
- 一 東日本大震災、令和6年能登半島地震及び豪雨災害等からの復旧・復興の加速と、全国的な防災・減災対策、国土強靱化を推進すること。
- 一 実効ある経済対策による地域経済の再生を図ること。
- 一 町村にとって最重要課題である地方交付税等の一般財源総額を確保すること。
- 一 地方分権改革を推進すること。
- 一 自治体DXをはじめとするデジタル化施策を推進すること。
- 一 都市と農山漁村の共創社会を実現すること。
- 一 農業関係予算の増額、食料・農業・農村政策の一体的な推進による持続可能な

令和7年度 法令外負担金を 審査

負担金等委員会



本会は10月16日、青森市の県共同ビルで負担金等委員会を開催した。出席者は小又会長をはじめ委員の町村長9人。本委員会は、各町村の非常に厳しい財政状況の中、財政をさらに圧迫する法令外負担金等の負担内容を明確化し、町村行財政の安定と効率的運

営を図るため開催するもの。令和7年度の法令外負担金規制団体は44団体（対前年度比 同数）で、総額9660万3240円の回答があり、

協議事項は次のとおり。

自治功労者の 被表彰者を決定

第4回理事会

本会は10月16日、青森市の県共同ビルで第4回理事会を開催した。出席者は小又会長をはじめ役員町村長11人。理事会では、全国町村会表彰規程による自治功労者の推薦した。出席者は小又会長をはじめ役員町村長11人。理事会では、全国町村会表彰規程による自治功労者の推薦した。出席者は小又会長をはじめ役員町村長11人。理事会では、全国町村会表彰規程による自治功労者の推薦した。

協議事項

○全国町村会表彰規程による自治功労者の推薦について自治功労者として町長1名を推薦する。

○青森県町村会表彰規程による被表彰者について自治功労者として町長3名、一般職の職員144名を被表彰者とする。

審査の結果、令和7年度の負担金額は、各団体から提出があった負担金額どおり決定した。

また会議では、各法令外団体は新たな視点で目的や事業の抜本的な検討・協議が必要であるとの認識の下、各法令外団体に対し、次の事項を申し入れることとした。

1. 経費節減や団体運営のあり方について常日頃から見直しをするとともに、繰越額が支出済額を上回る団体については、賦課基準の見直し等を行い町村負担金の減額に努めること。

2. 町村負担金は、本会の決定額を上限とし、事業費等の増額に連動し町村負担総額を増額しないこと。

3. 会員市町村数等の減少に伴い、均等割負担金を増額しないこと。また、賦課基準とする数値が減少した場合は、現行の町村負担金を維持するため、賦課基準の単価を増額しないこと。

4. 他団体と統合した団体においては、統合に伴う事務運営の効率化により町村負担の軽減を図ること。

村田晃嗣氏が講演

本県、岩手、秋田で合同研修

地域社会の実現を図ること。
一、森林整備の促進と国産木材の需要拡大等を通じた林業の振興と山村の活性化を図ること。
一、ALPS処理水の海洋放出に伴う、風評対策、水産業支援等の徹底を図るとともに水産業の振興、漁村の活性化に取り組むこと。
一、地域からの脱炭素化を推

進すること。
一、地域の実情に応じたこともたちのための学校部活動改革を実施するとともに、指導者を確保すること。
一、参議院の合区を早急に解消すること。
一、領土・外交問題・国民の安全保障に毅然とした姿勢で臨むこと。



本会、岩手県町村会、秋田県町村会は、11月20日、3者合同により、東京都のホテルニューオータニで東北三県町村長中央研修会を開催した。出席者は各県町村長及び事務局長等約70人。

研修会では、秋田県町村会の松田会長のあいさつに続き、同志社大学法学部教授の村田晃嗣氏が「変動する国際情勢と日本の課題」と題し講演した。

町村長選挙結果

深浦町長

平沢 ひらさわ

一臣 かずおみ 氏



任期満了に伴う深浦町長選挙は、11月24日、投票票が行われ、新人の平沢一臣氏(50)が初当選を果たしました。
〔略歴〕社会福祉法人理事長

田舎館村長

品川 しながわ

新一 しんいち 氏



任期満了に伴う田舎館村長選挙は、10月27日、投票票が行われ、新人の品川新一氏(72)が初当選を果たしました。
〔略歴〕村議会議長

横浜町長

石橋 いしばし

勝大 かつひろ 氏



任期満了に伴う横浜町長選挙は、12月1日、投票票が行われ、現職の石橋勝大氏(83)が再選を果たしました。
〔略歴〕町議会議長

青森県町村長等名簿

令和6年12月26日現在
町村数30町村(22町8村)

町村		区 分	町 村 長 氏 名	生年月日	当選回数	任期満了年月日	副町村長氏名
東郡	平内町		船橋茂久	S24. 7.17	4	R 9.11.14	山田光昭
	今別町		阿部義治	S25. 9.18	2	R 8. 7.23	飯田哲
	外ヶ浜町		山崎結子	S56. 6.21	2	R 7. 4.23	松橋稔
	蓬田村		久慈修一	S25. 8. 1	3	R 7.11. 8	小松生佳
西郡	鱒ヶ沢町		平田衛	S34.11. 1	2	R 7.12.26	加藤隆之
	深浦町		平沢一臣	S49. 9.21	1	R10.12.20	佐藤洋一
中郡	西目屋村		桑田豊昭	S32. 1.11	1	R 7. 2.20	
南郡	藤崎町		平田博幸	S32. 6. 2	4	R 9.11.19	三上孝之
	大鰐町		山田年伸	S27. 3.11	4	R 8. 7.21	
	田舎館村		品川新一	S27. 2.21	1	R10.11.17	金枝尚明
北郡	板柳町		葛西健人	S34. 7.18	1	R 9. 4.29	長内伸夫
	鶴田町		相川正光	S28.10.29	3	R 8. 8.20	
	中泊町		濱館豊光	S34.10. 3	2	R 7. 4.23	横野彰吾
上北郡	野辺地町		野村秀雄	S38. 4.15	2	R 9.10.26	江刺家利夫
	七戸町		小又勉	S24. 1. 2	5	R 7. 4.23	仁和圭昭
	六戸町		佐藤陽大	S48.11. 4	1	R10. 1.27	円子富浩
	横浜町		石橋勝大	S16. 9.27	2	R10.12.11	
	東北町		長久保耕治	S47.11.14	1	R 7. 4.23	沼尾啓吉
	おいらせ町		成田隆	S26. 2. 4	3	R 8. 3.25	小向仁生
	六ヶ所村		戸田衛	S22. 1.28	3	R 8. 7. 6	橋本晋
下北郡	大間町		野崎尚文	S30.11.17	1	R 7. 1.18	
	東通村		畑中稔朗	S37. 7.14	1	R 7. 4.12	
	風間浦村		富岡宏	S37. 4.27	2	R 7. 2.18	
	佐井村		太田直樹	S50. 7.14	1	R 8. 4.26	田名部二郎
三戸郡	三戸町		沼澤修二	S42. 4.25	1	R10.11.16	
	五戸町		若宮佳一	S41.12.30	2	R 9. 6.26	大久保均
	田子町		山本晴美	S39. 4.10	4	R10. 1.14	福田博実
	南部町		工藤祐直	S30. 5.22	7	R 8. 2.11	佐々木俊昭
	階上町		荒谷憲輝	S45. 4.24	1	R 7.12.23	澤田充
	新郷村		櫻井雅洋	S27. 5.25	2	R 7. 5.28	横田堅悦

三戸町長

沼澤 ぬまさわ

修二 しゅうじ 氏



任期満了に伴う三戸町長選挙は、11月17日、投票が行われ、新人の沼澤修二氏(57)が初当選を果たしました。(略歴)三戸中央病院参事・三戸中央病院事務長事務取扱

将来像実現に向けた取組の工程表を示す

第3回共創会議

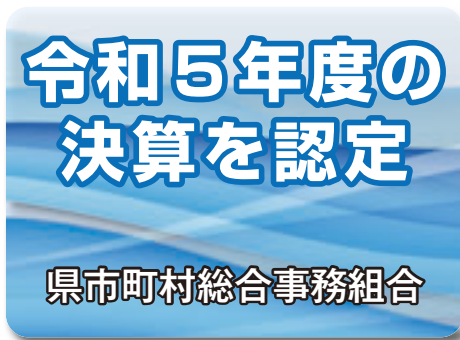
10月31日、原子力施設と県内立地地域の共生を議論する「青森県・立地地域等と原子力施設共生の将来像に関する共創会議」の第3回会合が、青森市のホテル青森で開かれ、宮下知事や原子力施設が立地

する4市町村の首長のほか、事業者、資源エネルギー庁長官らが出席した。

会議では5つの「将来像」の実現に向けた取組が提示された。



委員として出席した小又会長は、第2回の共創会議に引き続き、地域の安全・安心を確保するための道路等の基盤整備について、より具体的に示すよう求めた。また、半島防災の観点から「原子力施設が集中立地する下北半島では遅れている道路整備が一番大事で重要な部分」と述べ、地域の安全・安心、事業への信頼を確保するためにも道路整備の重要性を訴えた。



県市町村総合事務組合は、

10月9日、青森市の県共同ビルで第2回組合議会定例会を開催した。出席者は小又管理者をはじめ議員等の市町村長10名。

定例会では、議案7件と報告事項1件を審議し、それぞれ原案どおり承認・決定した。

議案

○議案第1号 令和5年度青森県市町村総合事務組合一般会計歳入歳出決算の認定を求めめるの件
歳入総額8億2866万3千余円に対して歳出総額8億1365万5千余円で、歳入歳出差引額1500万8千余円。このうち770万円を財政調整基金に繰り入

れる。

○議案第2号 令和5年度青森県市町村総合事務組合市町村税等滞納整理特別会計歳入歳出決算の認定を求めめるの件
歳入総額6648万5千余円に対して歳出総額6178万7千余円で、歳入歳出差引額469万8千余円。このうち400万円を財政調整基金に繰り入れる。

○議案第3号 令和6年度青森県市町村総合事務組合一般会計補正予算(補正第1号)
案II青森県市町村総合事務組合一般会計の歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ324万6千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ8億2843万3千円とする。

○議案第4号 令和6年度青森県市町村総合事務組合市町村税等滞納整理特別会計補正予算(補正第1号)案II青森県市町村総合事務組合市町村税等滞納整理特別会計の歳入歳出予算の内訳において、69万6千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ7143万5千円とする。

○議案第5号 青森県市町村消防団員に係る退職償金の支給に関する条例の一部を改正する条例案II消防団員退職報償金支給責任共済契約の掛金の対象外とする機能別消防団員を構成団体が設置したため所要の改正を行うもの。

○議案第6号 青森県市町村税等滞納整理事務の移管等に関する条例の一部を改正する条例案II令和6年度から導入される森林環境税(国税)を、地方税である個人住民税均等割と併せて賦課徴収するため、市町村税滞納整理事務の移管等に関する条例の改正を行うもの。

○議案第7号 監査委員の選任について同意を求めめるの件
II監査委員に櫻井新郷村長を再任する。

○報告第1号 専決処分した事項の報告及び承認を求めめるの件(令和6年専決第1号)
令和5年度青森県市町村総合事務組合一般会計補正予算(補正第2号)II青森県市町村総合事務組合一般会計の歳入歳出予算の総額に1600万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ8億5328万1千円とする。



問い合わせ先 道の駅いまべつ半島プラザアスクル
TEL 0174-31-5200

これ1本で味がグレードアップ! 手軽さで有名なアウトドアスパイスほりにしの青森県ご当地ver.は今別町だけで売っています。

荒馬まつりを思い出すような荒馬と花火のイラストが描かれたオレンジ色のラベルです。春のキャンプシーズンへ向けて1本いかがですか?

道の駅いまべつ半島プラザアスクルと海峡の家ほろづきで販売中です。

青森県でここだけ! 『ご当地ほりにし』売ってます

いまが旬!
いまべつまつり
今別町

東津軽郡



問い合わせ先 外ヶ浜町役場 企画政策課
TEL 0174-31-1214

「龍飛岬マツカワ」はカレイの一種で「マツカワガレイ」とも呼ばれ、その漁獲量の少なさから「幻の魚」といわれる高級食材です。

「龍飛岬マツカワ」は青函トンネルからしみ出る清浄な海洋深層水をくみ上げて養殖しており、身が厚く、程よく脂のついた美味しい魚で、刺身やお寿司で食べると最高の味わいです。

ぜひご賞味ください。

最高の味わい!
龍飛岬マツカワ

いまが旬!
そこがほまま
外ヶ浜町

東津軽郡



問い合わせ先 一般社団法人もったいない研究所
TEL 0173-26-5888

「TSURUTA LABO」は、地域コミュニティ活動と地場産業を支援する廃校舎をリノベーションした複合施設です。

一般的なオフィスのみならず様々な利用が可能な貸オフィス、短時間から利用できるコワーキングスペースなどを備えています。また、元学校なことを活かした個性溢れるイベントスペースや大規模イベントに対応出来る体育館なども利用できます。

廃校をワークスペースに
『TSURUTA LABO』

いまが旬!
つるたまち
鶴田町

北津軽郡



問い合わせ先 野辺地町観光協会
TEL 0175-64-9555

野辺地町では、藩政時代に北前船で上方から伝えられた河原決明(かわらけつめい)を焙じて作る「河原決明(かわらけつめい)茶」を薬草茶として昔から愛飲しています。また、野辺地駅に隣接している観光物産PRセンターでは茶葉を素材に加えたお菓子や麺も販売しています。野辺地町へお越しの際は、河原決明(かわらけつめい)の味を堪能してみませんか?

施設開館時間: 9時から19時半まで
売 店: 9時から17時まで

河原決明を
かわらけつめい
野辺地町観光物産PRセンター

いまが旬!
のへしまち
野辺地町

上北郡

いまが旬!

七戸町

しちのへまち

上北郡

もう！ウィンタースポーツを楽しもう！七戸町営スキー場

七戸町営スキー場は、自然の地形を利用したバラエティー豊かなコースレイアウトが特徴です。県南地方のほぼ中心に位置しており、近隣の方々も利用しやすいスキー場となっています。スキー・スノーボード教室も開催しているので初心者の方も安心！ぜひ家族や友人とお越しください。



問い合わせ先 七戸町営スキー場
TEL 0176-62-5612

いまが旬!

佐井村

さいむら

下北郡

村民有志が栽培したホップを使用した佐井村クラフトビール!!

佐井村では、2019年から「日本で最も美しい村づくり」の一環として村民有志が栽培したホップを使用したクラフトビールを醸造・販売しています。

現在、販売(村内外・インターネット)している「佐井の夕陽エール」はホップとオレンジピールのさわやかな香りを楽しむことができ、佐井村の海の幸によく合います。ぜひお買い求めください。



問い合わせ先 佐井村役場 総合戦略課
TEL 0175-38-2111

いまが旬!

五戸町

このへまち

三戸郡

医食の連携へ向けて「バ・オール」

【バ・オール】は、五戸町の上市川地区に整備予定の産直等拠点施設の名称で、公募した名称への一般投票により決定しました。たくさんの応募及び投票ありがとうございました。

この施設は、隣接地に建設予定の医療機関とともに、健康の維持のため五戸町の特産品や安全・安心な農林水産物の提供を行っていきます。

令和8年度の開業を予定しておりますので、楽しみにお待ちしております。



問い合わせ先 五戸町役場 総合政策課政策調整室
TEL 0178-62-7974

新菜菜 お弁当・お惣菜大賞2025 弁当部門「優秀賞」を受賞!!

本会との弁当フェアで、本県町村の食材を使用したお弁当を開発・販売している新菜菜(にいなな)(県共同ビル地下)の「けの汁で炊いた『けの飯』青森満喫弁当」が、(一社)全国スーパーマーケット協会主催の「お弁当・お惣菜大賞2025」の弁当部門で優秀賞を受賞しました!

この、「お弁当・お惣菜大賞」では、スーパーマーケットや専門店、コンビニエンスストア等で実際に販売されているお弁当等の中から特に優れた商品を選出しています。

ぜひご賞味ください!

弁当&お惣菜 新菜菜(にいなな) TEL 017-718-2029



町村の専門人材の確保に向けた第3回連絡会議を開催

本会は、12月20日、第3回「町村の専門人材の確保に関する連絡会議」を青森市の県共同ビルで開催した。12町村の人事担当者等13人が出席。

はじめに、本会の原田常務理事があいさつした。引き続き、事務局が今年度に本会で取りまとめをした職員採用試験の実施状況や、第2回連絡会議等での千葉教授（県立保健大学）からの発言要旨を報告した。

続いて、平内町と中泊町から保健師確保に関する事例を発表した。

最後に事務局から、保健師を獲得するための取組の方向性として、各町村での実習受け入への取組促進と、インターンシップ取組強化を示した。

保健師の資格取得に必要な実習は大学4年生で行い、実習を通して保健師としての就職意欲が高まる傾向がある。一方、実習を受ける時点で看護師として就職が決まっている学生が多いことから、より早期にインターンシップを行うことが保健師としての就職へつながることが期待される。

取組を進めるに当たり、町村にはインターンシップ受入の促進（学生への丁寧なアプローチ）、大学には学生の掘り起こし、本会ではインターンシップへ取り組む学生への支援を提案した。

【事例発表概要】

■平内町

平内町総務課の遠嶋指導監督が、インターンシップの受け入れが採用につながった事例を報告した。

町では元々インターンシップを受け入れていなかったが、学生から健康増進課への申し出がきっかけで受け入れた。危機感を持っていた健康増進課が総務課に打診したことから受け入れが実現し、最終的に採用につながった。

インターンシップの受け入れに当たり、健康増進課では学生の興味がある分野や、町特有の事業を体験してもらうなど工夫をしたことも紹介された。

■中泊町

中泊町民課の伏見課長補佐が、保健師インターンシップ募集事業を説明した。

自身も保健師である伏見課長補佐は、インターンシップが有益だと認識があったものの、現場で受け入れが難しかった状況を述べた。

その上で、保健師を採用できない現状から、就職活動をする前の学生や有資格者がインターンシップに参加できる機会を設けたと説明した。



加入推進に理解と協力を 災害共済関係事業等別加入推進事務打合せ

本会は10月中旬から下旬にかけて、県内3地区3会場で開催市町村及び一部事務組合などを対象に、災害共済関係事業等別加入推進事務打合会を開催した。

プラザアラスカ
東郡・上北郡（野辺地町、横浜町、六ヶ所村）・下北郡・むつ市

■10月24日（木）

打合会では、本会の各共済事業の幹事会社である日本生命保険相互会社及び損害保険ジャパン株式会社、本会事務局が本会共済事業の加入推進への理解と協力を呼びかけた。

また、自動車共済専属調査員事務所である株式会社ジックが自動車の事故事例を紹介した。

主な打合事項

- 1 各保険事業について（幹事会社から説明）
 - ・任意共済・個人年金等
 - ・日本生命保険相互会社
 - ・総合賠償補償保険等
 - ・損害保険ジャパン株式会社
- 2 全国町村会保険事業について
- 3 全国自治協会災害共済事業について
- 4 全国町村職員生活協同組合事業について
- 5 自動車事故処理について

会場Ⅱ青森市ウェディング

■10月22日（火）

会場Ⅱ青森市ウェディング

災害発生時、町村長にはあらゆる負担がのしかかります。

その**精神的・財政的負担を軽減**するのが、災害対策費用保険です。



災害対策費用保険が後押しいたします。

※災害救助法の適用を受けた災害は除く。
ただし、災害救助法第2条第2項のみの適用を受けた災害は一部の費用を除き補償対象。



- ✓ 避難所の設置費用や飲料水等の供給費用等が対象！
- ✓ 職員の時間外勤務手当も対象！

災害対策費用保険のご案内

災害対策費用保険は、自然災害またはそのおそれが発生し、避難指示または高齢者等避難を発令したことにより発生した費用について保険金をお支払いする制度です。

令和5年度 加入実績	青森県	全国
加入団体数	7 団体	368 団体
保険料	6,563,667 円	345,066,929 円

令和5年度 支払実績	青森県	全国
支払件数	2 件	318 件
支払保険金	1,083,722 円	213,665,752 円
支払保険金平均	541,861 円	671,905 円

台風による具体事例

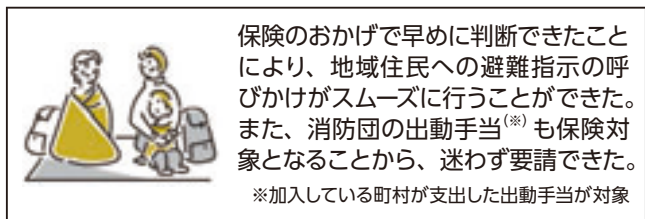
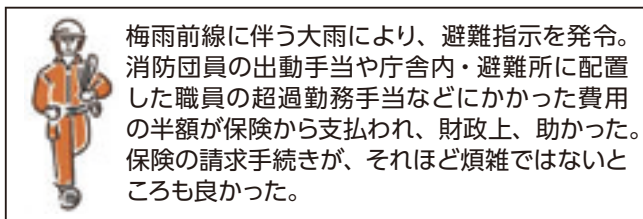
事故概要

台風の接近に伴い、大雨や暴風による人的被害発生可能性があるため避難指示を発令した。避難所を9箇所開設し、583名が避難した。

保険金支払

食料・飲料代、毛布のクリーニング代として約106万円、職員の超過勤務手当約366万円の合計約472万円の保険金が支払われた。

実際に活用している町村長からは「加入していてよかった」との声が届いています！



詳細は **zck 費用保険** で検索！

※加入の申し込み、お問い合わせは、青森県町村会までご連絡ください。

このご案内は、概要を説明したものです。詳しい内容については、取扱代理店または損保ジャパンまでお問い合わせください。

引受幹事保険会社
損害保険ジャパン株式会社 団体・公務開発部第三課
〒160-8338 東京都新宿区西新宿 1-26-1
TEL 03-3349-5408 (受付時間：平日の午前9時から午後5時まで)

取扱代理店
株式会社千里
〒100-0014 東京都永田町 1-11-32 全国町村会館西館内
TEL 03-5512-4750 (受付時間：平日の午前9時半から午後5時まで)

SJ24-09198 (2024.10.21)

「希望に満ち活力あふれるまち」

を目指して

藤崎町は、平成17年3月に旧藤崎町、旧常盤村の1町1村が合併してきた町で、今年で20周年を迎えます。

水と緑に囲まれた自然豊かなまちで、津軽平野のほぼ中央に位置しており、世界一の生産量を誇るりんご「ふじ」をメインに、りんごの生産がたいへん盛んであります。そのほか、減農薬で安全安心なお米や雪のように白く大きな「ときわにんにく」など、消費者から高い評価を集めてお



ふじさき食彩テラス

ります。

こうした町の農産物については「ふじさき食彩テラス」を拠点とし、地元農産物の付加価値の向上に挑戦しており、「ふじさきまちのりんごあめ」「りんごようかん」などの加工品の開発にも力を入れております。新たな食の魅力を生み出して地域6次産業化を推進し、地域ブランドづくりや産品の地域間連携といった方法で地域産業の活性化に取り組んでおります。

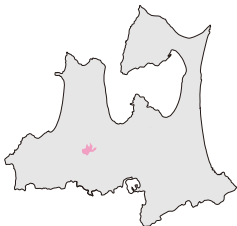
そのほか、移住定住の促進、子育て支援策の充実による人口減少対策、健康づくりなど、様々な施策に積極的に取り組んでまいりました。その成果が、2年連続「街の幸福度ランキング東北1位」(※大東建託株式会社「街の幸福度&住み続けたい街ランキング2021・2022(東北版)」出典)に選ばれる結果に繋がったと感じております。昨年を振り返りますと、かねてより進めておりましたり



藤崎町長

ひろゆき
博幸

ひらた
平田



東に八甲田連峰、西に岩木山、南に出羽丘陵、北は梵珠山に囲まれ、津軽平野のほぼ中央に位置する町。世界一の生産量を誇るりんご「ふじ」の生まれ故郷としても有名で、りんご以外にも、米、にんにくなど安全で安心な農産物が町の自慢です。水と緑に囲まれた豊かな自然がもたらす四季折々の風景が、訪れる人をもてなします。



藤崎町産業文化交流施設(リンゴカ)

ノーシェンを経て、平成31年に閉校となった旧弘前実業高等学校藤崎校舎を「ふじさき産業文化交流施設 リンゴカ」として供用開始いたしました。施設1階には、「リンゴカ・ミュージアム」という展示室があります。見て・触れて・体験して、楽しみながら「世界一の生産量を誇るりんごふじ発祥の地」である藤崎町の魅力を認識・発見できますので、大人から子どもまでたくさんの方に訪れていただきたいと思っております。また、施設2階では、「屋内ファーム・障がい福祉サービス」を運営し、農福連携による屋内ファームでのキノコ類の栽培を通じて障がい者の就労を支援しています。こうした障がい福祉サービス提供のほか、地元農家や地域の方々との交流促進も図り、農福連



リンゴカ・ミュージアム

携により地域と農業を元気にする地域づくりに取り組むことで、SDGsのゴールに向けた取り組みを積極的に推進してまいります。

近年は、社会情勢の変化が著しく、町を取り巻く環境も大きく変わっております。住民と行政が一体となり、より豊かな住民生活の実現と情緒豊かな人づくりを目指し「藤崎町第2次総合計画」を策定しております。こうした社会情勢の変化に的確に対応していくため、引き続き移住定住の促進、子育て支援策の充実による人口減少対策など、様々な施策に取り組んでいきたいと存じます。そして、町の将来像である「みんなが築く希望に満ち活力あふれるまち ふじさき」の実現に向けて、職員とともに精進してまいります。